

〔和爾雅地理下〕下總國 眞間浦葛飾郡在

〔南留別志二〕眞間の橋を繼橋といふ、繼をま、とよむゆゑなるべし。

〔江戸砂子六〕下總國葛飾郡の内

眞間の繼橋 大門の松並木を入れて少の川にかゝる、わたり四五間ばかり、かたはらに鈴木何某が立る碑あり、

〔國花萬葉記下總〕眞間の入江 繼橋あり、勝鹿よりちかし。

〔江戸名所圖會二十〕眞間繼橋 弘法寺の大門石階の下、南の方の小川に架す所の、ふたつの橋の

中なる小橋をさしていへり、或人いふ、古へは兩岸より板をもちて中梁にて、打ち

〔萬葉集東四〕安能於登世受、由可牟古馬母我、可都思加乃、麻末乃、都藝波思、夜麻受可欲波牟、

右四首〇三 下總國歌

〔東路のつと〕まゝの繼橋のわたり、中山の法華堂の本妙寺に一宿して、翌日一折などありしかど、發句計を所望にまかせて、

杉の葉やあらしの後の夜はの雪

〔遊囊贖記三〕眞間入江ハ行徳ヨリ船橋カケテ、或ハ兼葭ノ沼トナリ、或ハ水耕ノ田トナリテ、イツシカ浦輪遠ザカリ行ク、眞間ノ井繼橋、手兒名ノ墓モ形バカリゾ殘リケル、

磯津橋

〔今昔物語二十五〕平將門發謀反被誅語第一

今昔、朱雀院ノ御時ニ、東國ニ平將門ト云兵有ケリ、〇中王城ヲ下總ノ國ノ南ノ亭ニ可建キ議ヲ成ス、亦磯津ノ橋ヲ京ノ山崎ノ橋トシ、相馬ノ郡ノ大井津ヲ京ノ大津トス、

近江國 勢多橋

〔伊呂波字類抄國世〕勢田橋セタノハシ

〔拾芥抄下本〕大橋 近江多